



第1章

開通後の まちづくり

- 道路交通
- 新たなまちづくり

道路交通

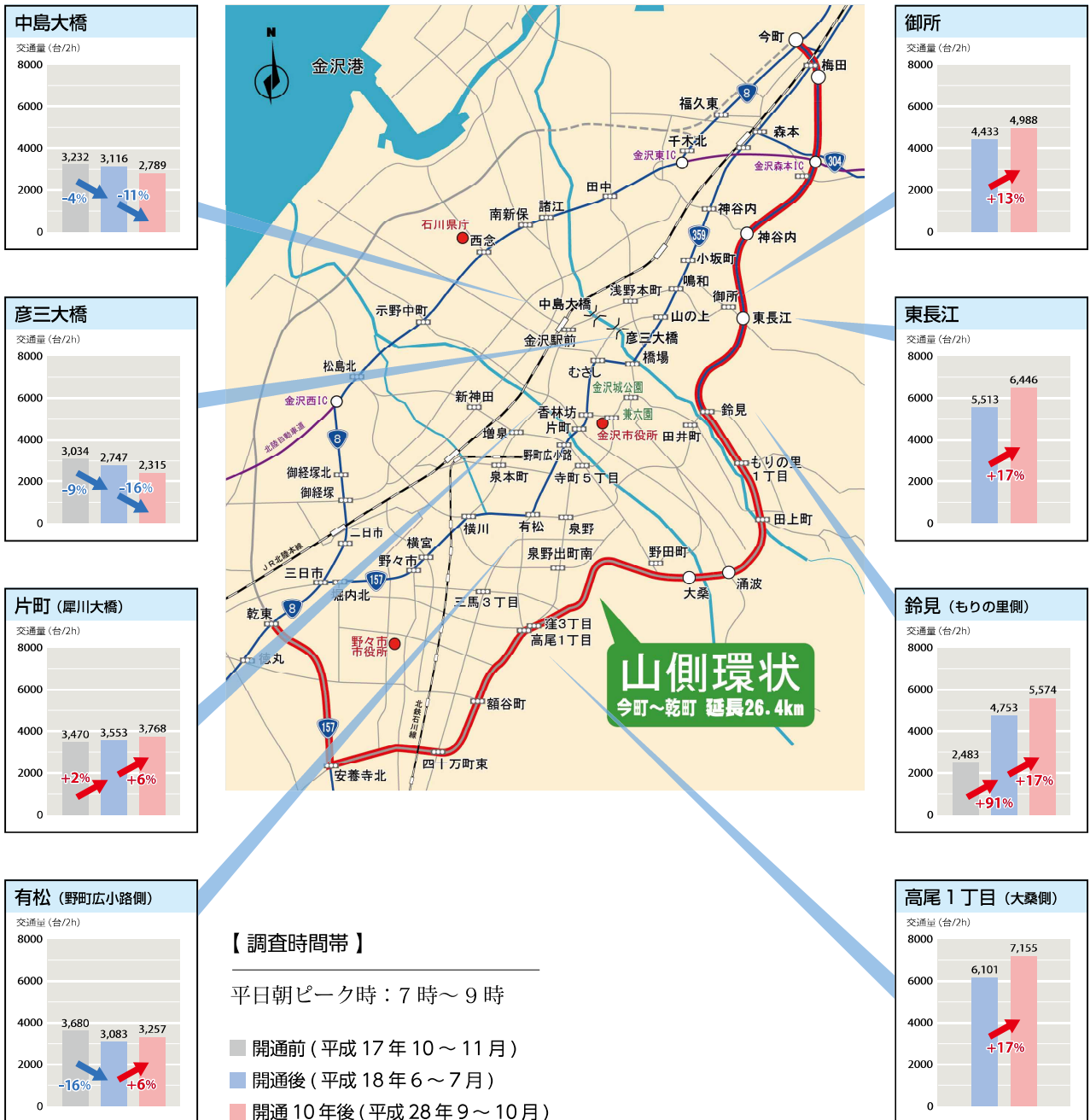
1 交通状況の変化

交通量の変化

- 平成 18 年の全線開通直後には、山側環状への交通転換により、金沢市中心部において交通量が減少、開通 10 年後においても、中島大橋や彦三大橋では交通量の減少が確認されました。
- 一方、金沢市中心部の幹線道路の一部区間で、朝の通勤時間帯の交通量が増加していることが確認されました。
- 山側環状では、日常生活での利便性が浸透し、10 年間でさらに交通量が増加しています。

◆ 全線開通前後と開通 10 年後 (平成 28 年) の交通量の変化

※金沢河川国道事務所、石川県、金沢市による調査結果



渋滞の変化

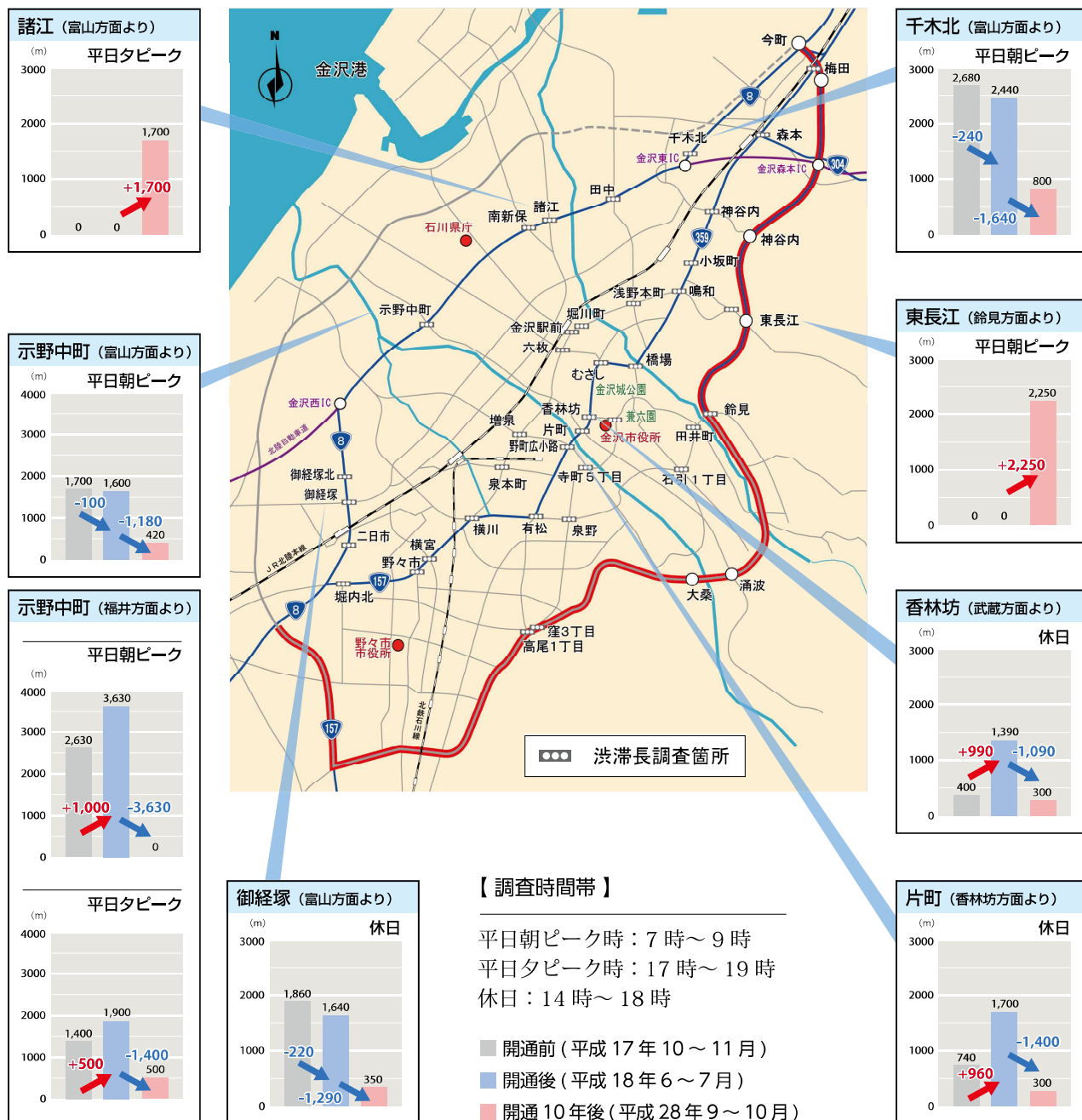
■ 平成 18 年の全線開通直後には、金沢市内へ流入する道路において渋滞が短縮したものの、金沢市中心部及び周辺の幹線道路では、渋滞が 500m 以上延伸した交差点が確認されました。

■ 平成 18 年以降、金沢市内では、山側環状のほかにも様々な道路ネットワークの整備が進み、平成 28 年には、金沢市中心部及び周辺の幹線道路の交差点において渋滞が 1km 以上短縮していることが確認されました。

■ 山側環状や海側幹線の整備により、金沢市内における交通の経路分散が図られています。

◆ 全線開通直後から渋滞長が 1km 以上変化した交差点

※金沢河川国道事務所による調査結果



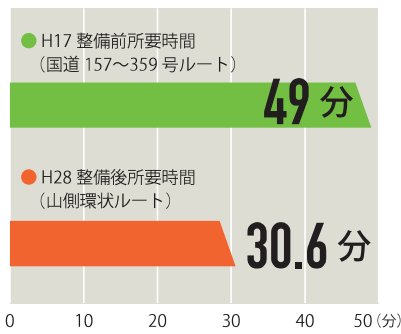
所要時間の変化

■ 山側環状の全線開通により、金沢市内を移動する際の所要時間の短縮が図られました。

■ 安養寺北交差点から金沢森本 IC への経路では、山側環状ルートの利用により、金沢市中心部を通過する経路（国道 157～359 号ルート）よりも短い時間で移動が可能となりました。

◆ 全線開通前後と開通 10 年後の所要時間の変化 (安養寺北交差点→金沢森本 IC)

※金沢河川国道事務所、石川県、金沢市による調査結果



● 開通前：平成 17 年 10～11 月
● 開通 10 年後：平成 28 年 10 月

 <p>金沢森本 IC</p>	<p>約30分(開通前) ▶ 約22分(現在)</p> <p>国道 304 359 159</p> <p>金沢森本 IC → 森本 → 橋場 → 兼六園下</p>	 <p>兼六園</p>
	<p>約30分(開通前) ▶ 約16分(現在)</p> <p>山側環状</p> <p>金沢森本 IC → 鈴見 → 田井町 → 兼六園下</p>	

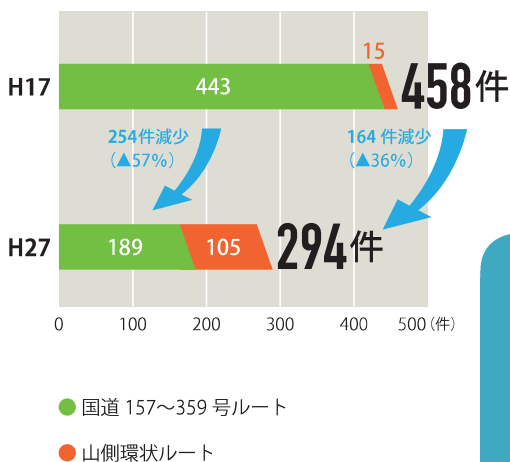
交通事故件数の変化

■ 山側環状の全線開通前の平成 17 年と全線開通後の平成 27 年の交通事故件数の比較では、白山市安養寺町～金沢市梅田町間を結ぶ主要幹線（山側環状ルート、国道 157～359 号ルート）において、交通事故件数の減少（全線開通前比 36%減）が確認されました

■ 山側環状ルートでは、全線開通による交通量の増加に伴い交通事故が増加していますが、金沢市中心部を通過する国道 157～359 号ルートでは、交通事故件数が半数以下まで減少（全線開通前比 57%減）したことが確認されました。

◆ 全線開通前と開通 10 年後の交通事故件数の変化 （白山市安養寺町～金沢市梅田町間）

※金沢河川国道事務所、石川県資料



2 交通環境の整備

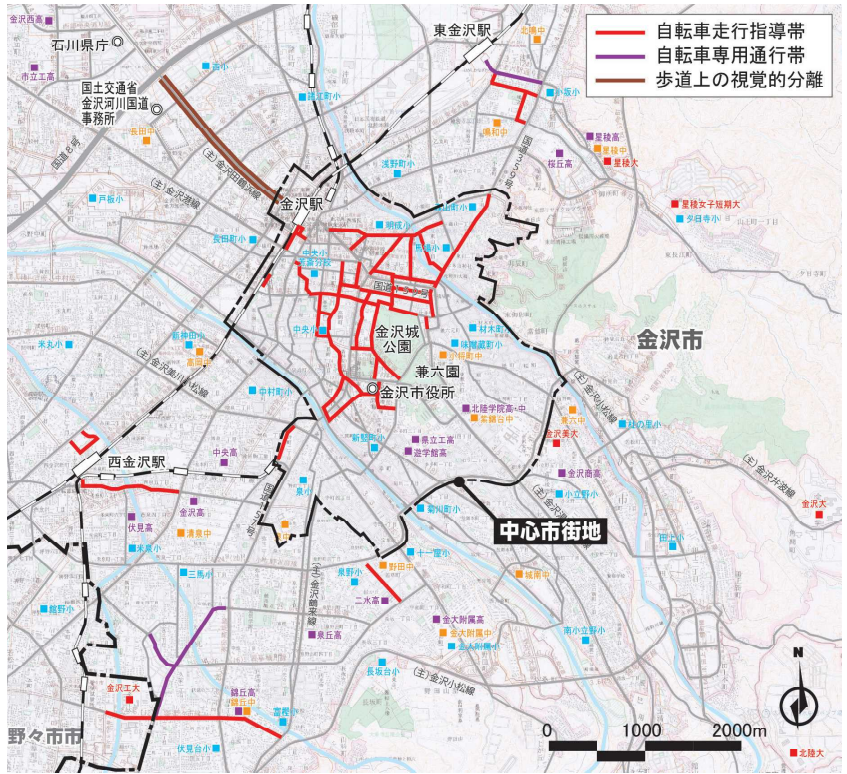
自転車通行空間の整備

山側環状の開通による金沢市内中心部の自動車交通量の減少を契機として、国道359号（旧国道159号）の浅野川大橋～山の上交差点に、平成19年10月に全国初となるバスレーンを活用した自転車走行指導帯を整備しました。

この整備がきっかけとなり、金沢市及び野々市市において自転車通行空間の整備が進み、平成28年12月時点で総延長25.6kmの自転車通行空間が整備されています。



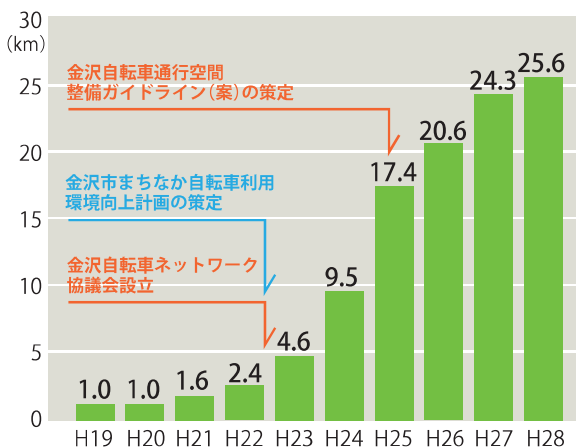
▲浅野川大橋の自転車走行指導帯



▲自転車通行空間の整備状況図

第1章 開通後のまちづくり

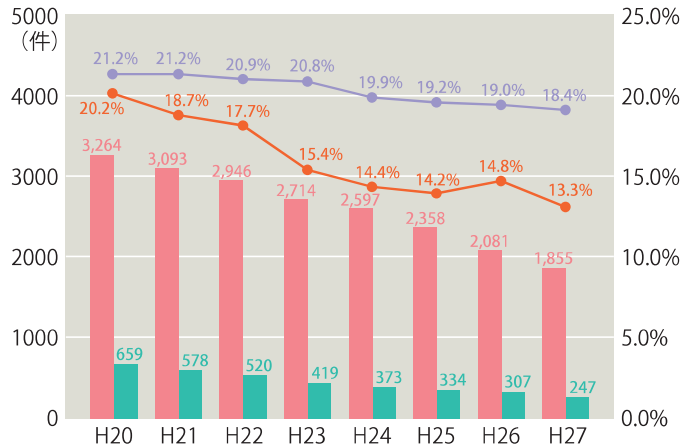
◆ 整備延長の推移



これらの自転車通行空間整備が一因となり、平成27年の自転車関連事故件数は、平成20年と比べて約6割減少しています。

さらに、全交通事故に占める自転車関連事故の割合も、全国に比べて減少しています。

◆ 全国と金沢市の自転車関連事故件数等の比較



■ [金沢] 全交通事故件数
 ■ [金沢] 自転車関連の事故件数
 ● [金沢] 全交通事故に占める自転車関連事故の割合
 ● [全国] 全交通事故に占める自転車関連事故の割合

※写真・資料：金沢自転車ネットワーク協議会

鈴見交差点立体化（平成21年12月12日開通）

- 鈴見交差点は、沿道から出入りが多い4車線道路である主要地方道金沢小松線区間と、平面交差点のない2車線道路である国道159号金沢東部環状道路の結節点のため、山側環状の全線開通後、鈴見交差点は慢性的に渋滞していました。
- 渋滞対策検討の結果、高架橋を整備して交差点を立体化する対策が選定されました。
- 鈴見地区や山側環状沿道は、金沢市が定める景観計画で良好な景観の保存・形成を図る区域として位置付けられており、まちなみに調和する景観検討がなされるとともに、事業の説明会では地域の方々が理解しやすいように、完成形のイメージ図や模型を作成して検討を進めました。



▲もりの里地区における鈴見交差点を先頭とした渋滞 ※写真：金沢河川国道事務所

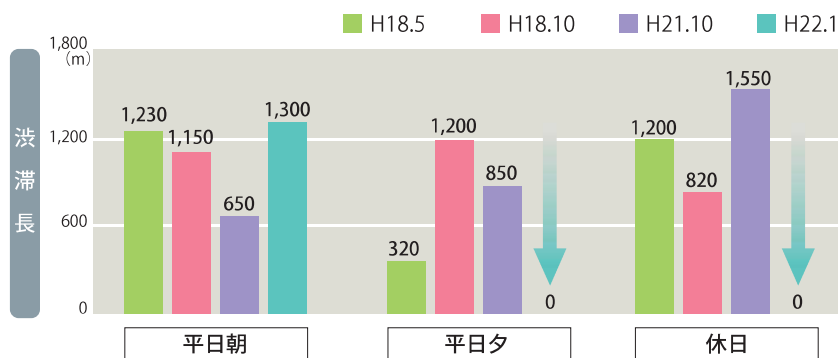


▲検討段階で使用した鈴見高架橋のイメージ図

※金沢河川国道事務所資料

- 平成21年12月に開通した鈴見交差点の立体化により、もりの里側で平日の夕方及び休日に発生していた渋滞が解消されました。
- 一方、平日朝の時間帯には、立体化後も渋滞が発生していたため、引き続き、東長江～鈴見間の4車線化整備が進められました。

◆ 鈴見交差点（もりの里側）における渋滞の変化 ※金沢河川国道事務所による調査結果

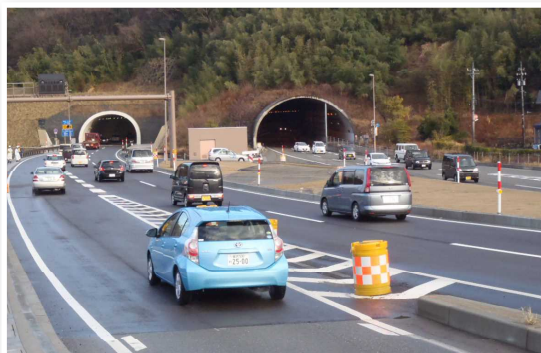


東長江～鈴見間 4車線化 (平成24年12月19日開通)

- 鈴見交差点の立体化に続き、平成24年12月19日に東長江～鈴見間の4車線化整備が完了し、山側環状の4車線区間が延伸されました。
- 4車線区間の延伸により、卯辰トンネル～鈴見交差点間の交通の流れが良くなり、東長江～もりの里一丁目間では、通過時間が短縮したほか、交通事故件数が約6割減少し、安全性の向上も図られました。



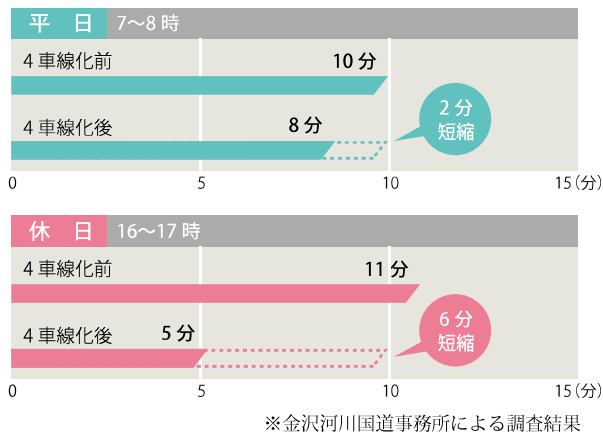
▲開通前の交通状況



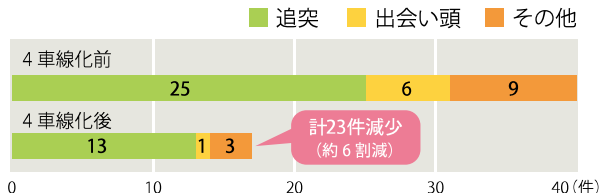
▲開通後の交通状況

※写真：金沢河川国道事務所

◆ 所要時間の比較※1 (東長江～もりの里一丁目)



◆ 交通事故件数の比較※2 (東長江～もりの里一丁目)



- ※1) 4車線化前：【平日】平成23年11月15日(火) 【休日】平成23年11月20日(日)
- 4車線化後：【平日】平成25年7月2日(火) 【休日】平成25年6月30日(日)

- ※2) 4車線化前：平成21年～24年の4ヶ年平均の交通事故発生件数
 - 4車線化後：平成25年～27年の3ヶ年平均の交通事故発生件数
- ※金沢河川国道事務所、石川県資料

column

卯辰トンネルでは新技術を活用

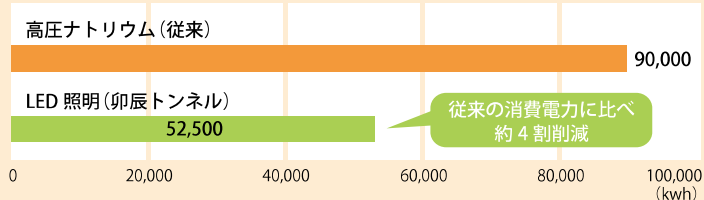


▲卯辰トンネル内のLED照明

4車線化整備で新たに開通した卯辰トンネルの上り線側は、従来よりも明るく、消費電力の少ないLED照明が採用され、下り線側も従来の照明をLED照明に更新しています。

これにより卯辰トンネルの下り線側では、半年間で約40万円の維持管理費を削減しています。

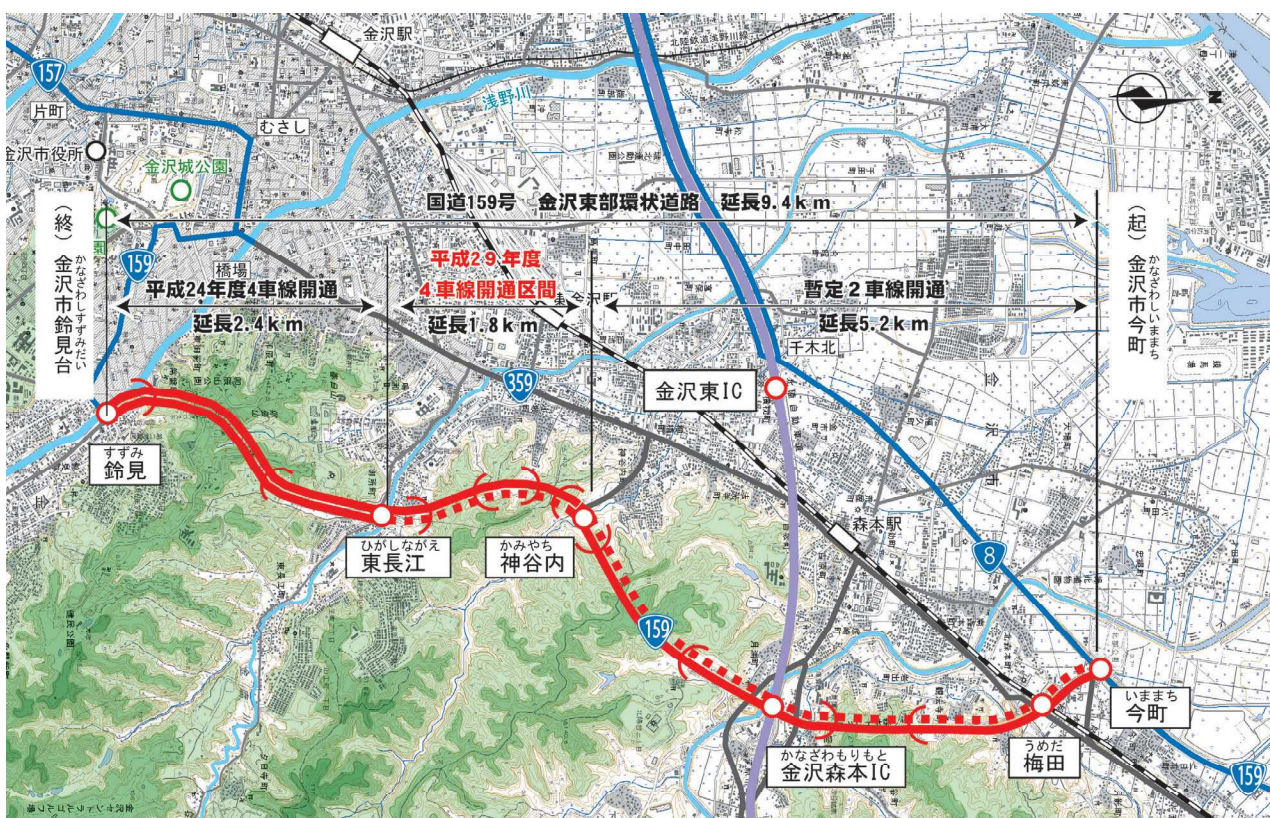
▼ 下り線側トンネルの電力使用量の比較 (半年間)



※写真・資料：金沢河川国道事務所

さらなる交通の円滑化に向けて ～4車線化整備の推進～

- 平成18年の全線開通後、山側環状の交通量は増加傾向となっています。
- 2車線区間が多く残る金沢東部環状道路では、朝の通勤時などに渋滞が発生しており、さらなる交通の円滑化に向けた4車線化整備を進めています。
- 平成29年度には、神谷内～東長江間の4車線化開通が予定されており、残る今町～神谷内間についても引き続き、4車線化整備に取り組んでいきます。



column

神谷内トンネル(Ⅱ期)・御所トンネル(Ⅱ期)が貫通

平成29年度に4車線化開通予定の神谷内～東長江間において、掘削を進めていた神谷内トンネル(Ⅱ期)(延長420m)、御所トンネル(Ⅱ期)(延長490m)がそれぞれ、平成28年9月12日と12月1日に貫通しました。

引き続き、工事の安全を確保しつつ、早期の4車線化開通を目指して整備を進めています。



▲神谷内トンネル(Ⅱ期)貫通時の様子



▲御所トンネル(Ⅱ期)貫通時の様子

※写真：金沢河川国道事務所

道路交通

3 良好な道路環境の形成・維持

地域の住民による保全活動

■ 山側環状周辺では、計画段階からまちづくりに参画している住民が中心となって、良好なまちなみ景観の形成・維持に取り組んでいます。

■ 『草刈り芸術座』、『金沢北の玄関口をきれいにする会』、『東長江ICサポートクラブ』は、国土交通省のボランティア・サポート・プログラムによる支援、『山側環状の美しい景観を創る会』は、石川県のアドプト制度による支援を受けて、沿道の植樹や清掃活動、景観パトロールを行っています。

第1章 開通後のまちづくり

金沢森本IC周辺



※写真：金沢河川国道事務所

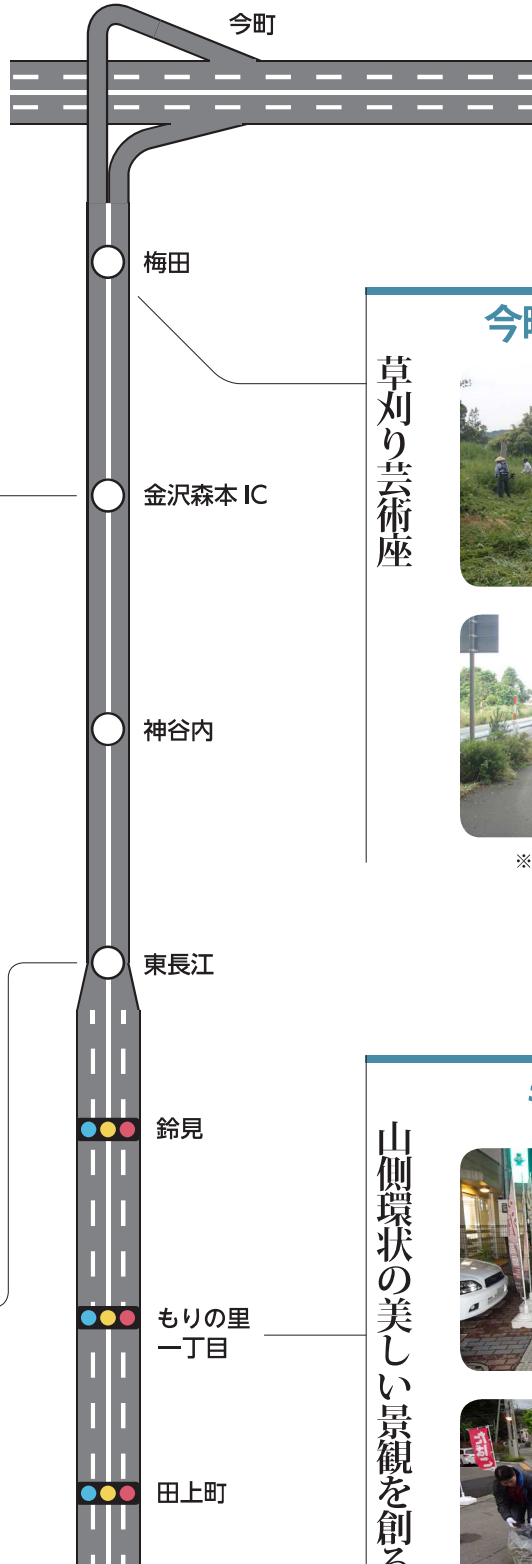
金沢北の玄関口をきれいにする会

東長江地区



※写真：金沢河川国道事務所

東長江ICサポートクラブ



今町・梅田地区

草刈り芸術座



※写真：金沢河川国道事務所

もりの里地区

山側環状の美しい景観を創る会



※写真：石川県

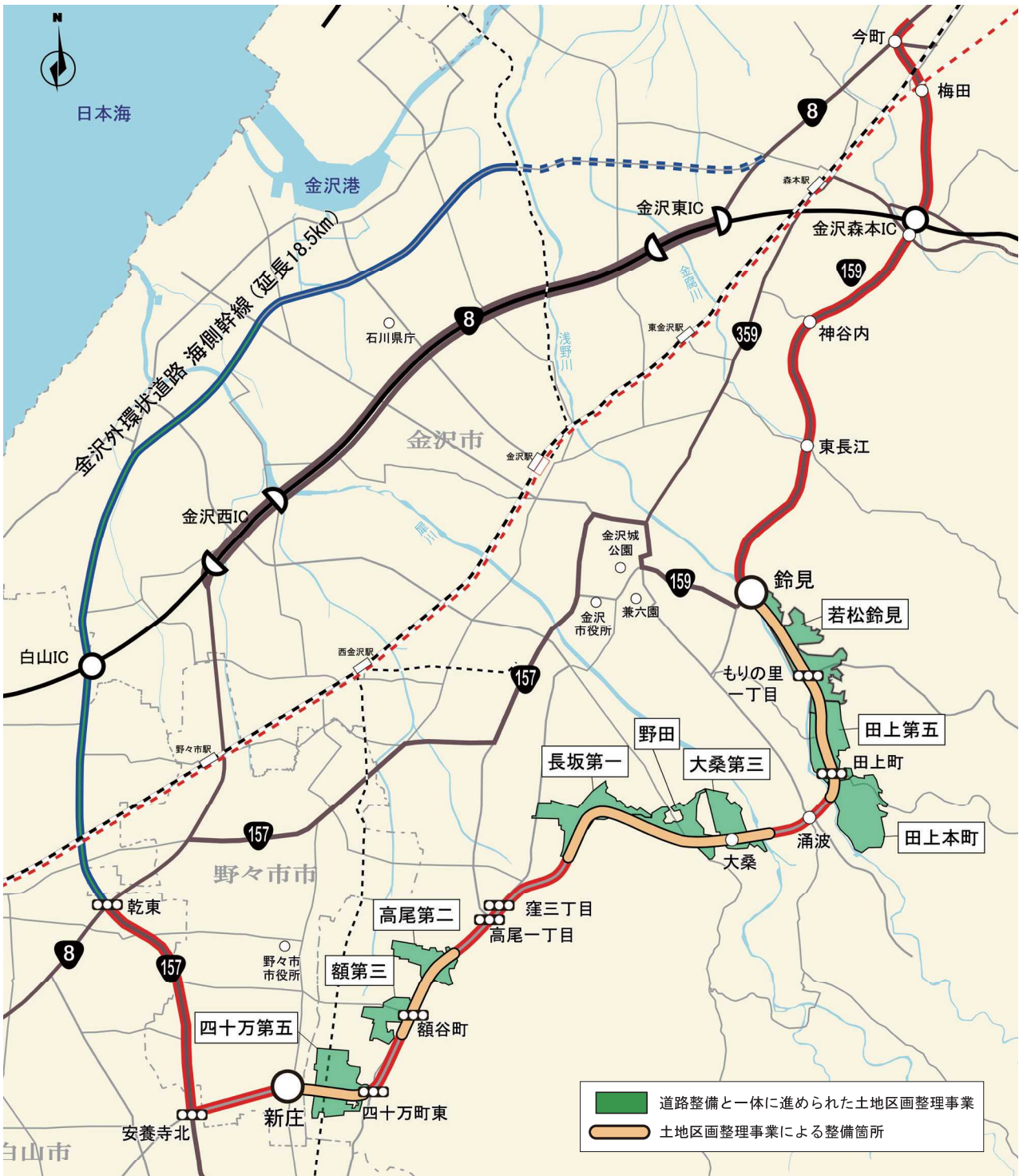
新たなまちづくり

1 周辺における土地区画整理事業

道路とともにあゆむまちづくり

■ 山側環状の周辺では、道路整備にあわせて、土地区画整理事業による良好な住環境の整備が進められてきました。

■ 山側環状の鈴見～新庄間のうち、約6割の区間は土地区画整理事業により整備されており、道路整備と一体となったまちづくりが進められました。



▲山側環状の整備に関する土地区画整理事業

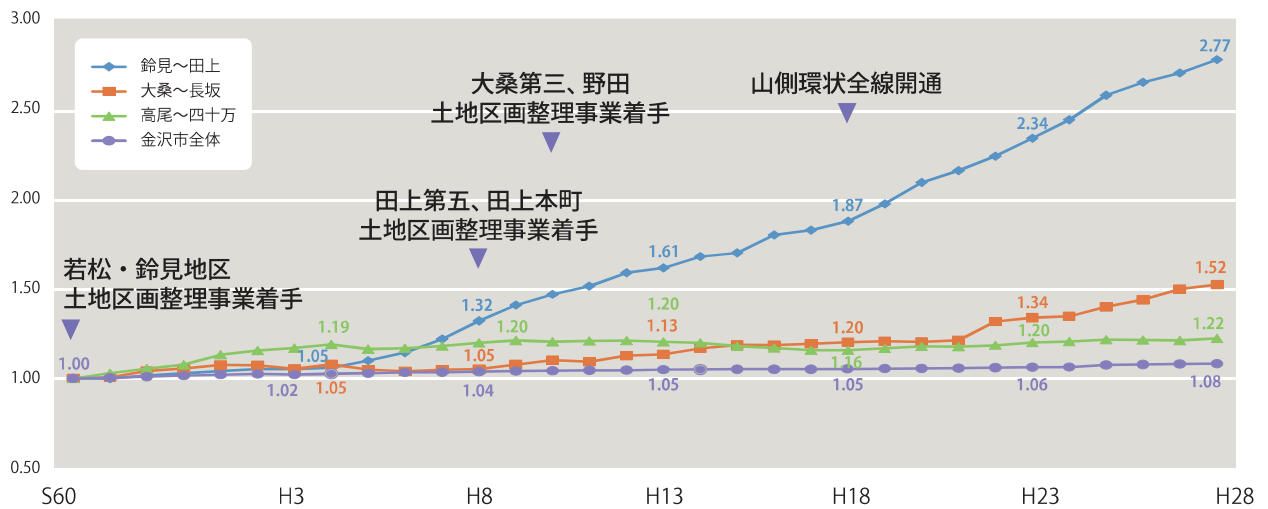
2 人口、世帯数の変化

山側環状沿線地区における人口、世帯数の推移

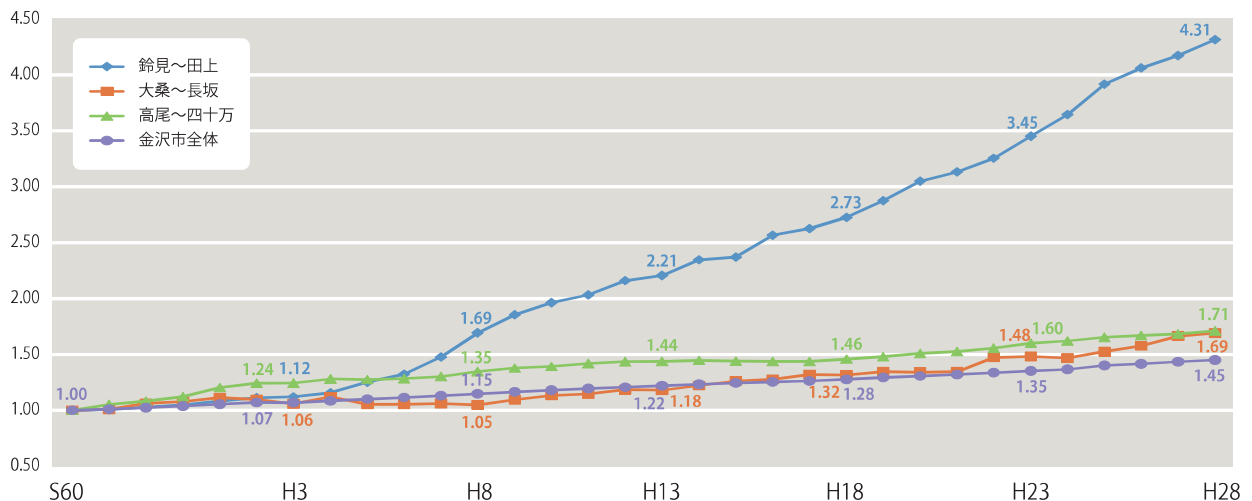
■ 昭和 60 年の若松・鈴見地区土地区画整理事業の事業着手以降、鈴見～田上地区では、継続的に土地区画整理事業が実施されており、生活利便施設を備えた住環境の整備によって、人口・世帯数は金沢市全体の増加割合を大きく上回っています。

■ 大桑～長坂地区や高尾～四十万地区においても、昭和 60 年以降、人口・世帯数ともに増加を続け、金沢市全体を上回る増加割合となっています。

◆ 人口の推移



◆ 世帯数の推移



- **鈴見～田上** 鈴見町、若松町、若松町 1 丁目～3 丁目、上若松町、田上町、田上 1 丁目～2 丁目、田上新町、田上本町、田上本町 1 丁目～4 丁目、太陽が丘 2 丁目～3 丁目、太陽が丘第 7 工区、太陽が丘第 9 工区、もりの里 1 丁目～2 丁目、もりの里 3 丁目、田上の里 1 丁目～2 丁目、田上さくら 1 丁目～3 丁目、朝霧台 1 丁目、朝霧台 2 丁目、角間新町
- **大桑～長坂** 大桑 1 丁目～3 丁目、野田町、長坂町、長坂 1 丁目～3 丁目、長坂台
- **高尾～四十万** 高尾町、高尾 1 丁目～3 丁目、高尾南 1 丁目～3 丁目、高尾台 1 丁目～3 丁目、光が丘 2 丁目～3 丁目、額谷町、額谷 1 丁目～3 丁目、四十万町、四十万 3 丁目～4 丁目、しじま台 1 丁目、大額町

※金沢市住民基本台帳より、S60～H2 は 7 月 1 日、H3 以降は 4 月 1 日の人口、世帯数を集計

3 山側環状周辺のまちなみ

移り変わったまちの姿 ①

全線開通の前後に、道路整備や良好なまちなみの創出を担ってきた土地区画整理事業も事業の完了を迎えました。

若松・鈴見地区

集い、出会い、語り、交流する街

鈴見町、鈴見台1丁目、もりの里1丁目～3丁目、若松町、上若松町、若松町3丁目、田上町

- 金沢市東部丘陵地を背景に、浅野川に面し、金沢大学の大学門前街としてまちなみが形成されています。
- 大学門前街としての良好なまちなみと居住環境の維持に向けて、地域住民が清掃活動や植樹などのまちづくり活動に取り組んでいます。



概要

施行期間 ■ 昭和60年～平成16年
 施行面積 ■ 66.0ha

田上本町地区

浅野川に緑が映える大学門前街

朝霧台1丁目～2丁目、田上本町1丁目～4丁目、田上町、田上1丁目、田上本町



- 卯辰山や医王山など、緑豊かな山々と浅野川の清らかな流れに恵まれています。
- 金沢大学を中心とした大学門前街の一端を担う地区として、若松鈴見地区、田上第五地区とともに、賑わいのあるまちづくりを行っています。

概要

施行期間 ■ 平成8年～平成27年
 施行面積 ■ 54.2ha

※写真：金沢河川国道事務所

移り変わったまちの姿 ②

田上第五地区

若さのにぎわいにあふれる街

田上さくら1丁目～3丁目、田上の里1丁目～2丁目、田上町、田上本町4丁目、もりの里1丁目

- 緑豊かな東部丘陵地帯や浅野川といった良好な自然環境の中で、若者の賑わいと交流をテーマに大学駅前街として整備されています。
- 人口の増加に伴って、新たに小学校が整備され、山側環状沿いには商業施設が建ち並び、幹線道路の沿道にふさわしい景観と緑豊かで快適な居住環境が備わったまちがつけられました。



概要

施行期間 ■ 平成8年～平成27年
施行面積 ■ 43.3ha

大桑第三地区

生活空間とショッピングの街

大桑1丁目～3丁目



- 犀川に面する豊かな緑と四季折々の自然に包まれた商業・住宅地として整備されています。
- 大型の公園を整備し、安全・便利で住みやすく、落ち着いたある住環境を実現しており、将来に向かって自然と共生するまちづくりを行っています。

概要

施行期間 ■ 平成10年～平成21年
施行面積 ■ 30.9ha

※写真：金沢河川国道事務所